

# 東京・大阪・名古屋 “3大公会堂”シンポジウム

## 事業レポート

4月から改修工事に入る名古屋市公会堂。休館を前にした“クロージング企画”の幕開けとして、公会堂の果たしてきた歴史的役割を検証し、今後の方向性を探るシンポジウムを開催しました。

名古屋市公会堂は改修工事のため平成29年4月1日から2年間、臨時休館します。

### 名古屋市公会堂 改修前のクロージング企画 公会堂— 歴史を受け継ぎ、未来を拓く

昭和5年(1930年)の開館以来、戦中戦後の動乱の時代を生き抜き、80年有余を経たず今日もホールでの多彩な催しなどで多くの市民に利用されている名古屋市公会堂。  
平成29年4月からは新装修繕とを併行した設備の更新などのため、大規模な改修工事を行います。この改修により、名古屋を代表する文化施設としての歴史を今後さらに広げたいと考えています。工事期間中の2年間は臨時休館しますが、休館前の「クロージング企画」の一環として、下記の3つのシンポジウムを開催いたします。  
関心をお持ちの多くの皆様のご参加をお待ちしております。

## 東京・大阪・名古屋 “3大公会堂” シンポジウム



名古屋市公会堂とはほぼ同時期に建てられ、現存する大規模公会堂で、今後もその活用が期待されるのが東京・日比谷公会堂と大阪市中央公会堂です。  
今回、東京・大阪・名古屋の「3大公会堂」関係者が一堂に会し、相互の共通点や相違点を踏まえ、歴史的に公会堂の果たしてきた役割と、今後果たすべき役割を検討する場とします。

1. 基調講演  
「公会堂～歴史が演出された舞台空間」  
※国立大学大学院教育学研究科准教授 新藤浩伸氏
2. パネルディスカッション  
「次代につなぐ公会堂の歴史と役割」  
【日比谷公会堂】 宮本浩典氏  
【大阪市中央公会堂】 中上良成氏  
【名古屋公会堂】 藤村正典氏

平成29年1月28日(土) 午後2時～3時  
名古屋市公会堂4階第7集会室 定員100名  
参加費 無料

主催・お問合せ／名古屋市公会堂 052-731-7191

〒460-0001 名古屋市東区東桜1-1-1 名古屋市公会堂4階第7集会室(休館中) ※公開予定あり

第一部は東京大学大学院教育学研究科准教授の新藤浩伸氏による基調講演。

日比谷公会堂の詳細な研究を基に、明治・大正・昭和にかけて公会堂が辿ってきた歴史的変遷を丁寧に説き起こし、その役割を「集会場」「劇場」「儀礼空間」「メディア」と分類、当初の予想を超えた多様な催事が繰り広げられた「歴史が演出された舞台空間」とまとめました。

さらに今後の方向性のヒントとしてロイヤル・アルバート・ホール（英）、カーネギーホール（米）の先進的アーカイブ活動を紹介。最後に「何でも受け容れた多目的ホールだから面白く、これからも可能性がある」と結びました。

第二部はまず、日比谷公会堂、大阪市中央公会堂、名古屋市公会堂の順に、それぞれの歴史や建物の特徴、現在の運営などについて発表しました。

明治期から構想はあったものの、ようやく昭和に入って誕生した首都東京待望の日比谷公会堂。我が国の政治史や社会史に残る出来事が数多く生まれました。

また実質的に初めての「クラシックホール」としてコンサートが頻繁に開催され、音楽文化の普及に大きな影響を与えました。



名古屋市公会堂と共通する、公園のに佇むスクラッチタイル貼りの落ち着いた外観

2009年には開館80周年記念事業を大規模に展開。それを機に整理した資料を基に「アーカイブ・カフェ」を設置し、積極的に歴史を発信している姿勢が印象的でした。



80周年記念コンサート



アーカイブカフェ



意匠を凝らしたレンガ造りの堂々たる外観

続く大阪市中央公会堂は日比谷や名古屋より古く、大正期の創建。老朽化が激しく、取り壊しも検討されましたが、市民の熱い思いで永久保存が決定。2002年に保存・再生工事が完了し、国の重要文化財に指定されました。この工事では各所に復元工事を施し、建築時の姿を忠実に再現しています。

現在は展示室を設け、その生い立ちから今日までの歴史を紹介しています。また毎週、館内を見学するガイドツアーも実施。大変好評を博しているそうです。



常設の展示室



毎週開催されるガイドツアー



日比谷と大阪の発表で、名古屋との意外な共通点も見つかりました。

例えば、いずれも寄付金が建設費用の大きな財源となっていることです。

日比谷公会堂は安田財閥の創始者、安田善次郎が350万円を、大阪は北浜の株式仲買人、岩本栄之助が100万円をそれぞれ寄付して建てられました。名古屋も総費用の9割が寄付金ですが、地元企業から個人まで多くの市民が寄付をしているのが特徴です。

建築面では、地盤強化のために大量の松を杭打ちしていることも共通です。

設計途中で関東大震災が発生し、耐震強化の方針を決めた日比谷、中之島の中州という地盤の弱い大阪、やはりもともと田園地帯で地盤の弱い名古屋、と事情は異なりますが、そろって松を打ち込んでいます。

このうち大阪は免震工事をした際に掘り出して、何本かは館内で展示しています。

ちなみに名古屋の場合は、直径24cmの松の丸太が全部で3,486本、現在でも地中に埋まっています。

もうひとつは、ホールの機能面です。もともと公会堂は、演説会や講演会、政党・組合・各種団体などの結成大会や年次総会といった催しが多いことを想定して設計されましたが、実際の利用は世界の一流演奏家のコンサート、オペラ、演劇、舞踊など様々な舞台芸術の公演が多くを占めました。

現代でいう「多目的ホール」として開館当初から機能し、舞台芸術の普及と発展に大いに貢献したのが、3館に共通する特徴です。



第二部の後半、各館の発表の後は、これまでの歴史を踏まえたうえで今後それぞれが果たしていく役割について話し合う予定でしたが、残念ながら残り時間がほとんどなく、掘り下げて議論するまでには至りませんでした。

右から日比谷公会堂の菊本前館長、大阪市中央公会堂の中井館長、名古屋市公会堂の藁谷館長、司会の新藤浩伸氏

戦前からの公会堂で、現在も多目的ホールとして活用されているのは、全国でも10か所程度しかありません。今回、初めての試みとしてその中の代表的な3施設が集まり、相互に施設の紹介をして情報交換ができたことは、意義があったと考えています。

3館とも、それぞれの地域で重要な歴史的役割を果たしながら今日まで存続し、多くの人々の様々な思いや思い出を背負っています。

そして既に改修を終えた大阪、間もなく改修に入る名古屋、改修の方向で休館している日比谷、と今後もさらにそれぞれの歴史を積み上げていくことが期待されます。

今回のシンポジウムを契機として、3館の協力関係を深めていき、それぞれの運営に活かしていくことができれば幸いです。



シンポジウム終了後、参加者による館内ツアーを行いました。4階ホール、特別室、大ホールの順に見学し、いずれも開館当時の趣が色濃く残る様子に興味深く見入っていました。

4階ホールの高い天井や梁は開館当時のまま

以下に、アンケートにお寄せいただいたご参加の皆さまの感想をご紹介します。

#### ○基調講演について

- 1時間の中で公会堂の歴史と意義をとってもわかりやすく話していただき、色々な気づきがありました。
- 話の流れもわかりやすくて良かったです。
- 多くの資料提示。歴史の多様性に驚きました。

#### ○各館紹介について

- 説明が的確に、映像資料を使って分かりやすいものでした。
- 各公会堂それぞれが「誇り」をもって現在に活動をつなげておられるのがよくわかりました。
- 名古屋市以外の日比谷、大阪の施設の特徴を伺えたことがよかった。
- 三大公会堂の各個性の様なものをもっと知りたかった。

#### ○パネルディスカッションについて

- もう少し時間があればもっとよかった。
- 地元の名古屋市民が公会堂をどう捉えているか伺うことができ、とても興味深かったです。

#### ○全体として

- 文化遺産として、記憶を残し伝えるべきもの。
- 重要文化財等貴重な資源であり、かつ現行利用できる両面を立てて行くのは困難な局面も出てくると思います。でもだからこそ良い面があるので、是非市民都民に開かれた場として活用される様努めて下さい。
- しっかりと改修をし、休館期間中も広報することで、さらに魅力と市民の心のともしびとなる施設として「歴史」をつづけて欲しい。

以上、貴重なご意見や感想をお寄せいただき、ありがとうございました。